

事務事業事後評価シート[令和1年度事業]

1. 基本情報

■事業の担当課	教育部総務課		■担当係	総務係
■評価事業名称	奨学金貸与事業			
■事業開始年度				
■評価事業コード	400100 - 002	■会計区分	一般会計	
■総合計画での位置づけ	■政策	02 生きる力を育み、文化が躍動するまちづくり		
	■基本施策	01 学校教育の充実・家庭や地域の教育力の向上		
	■施策	03 学校・家庭・地域が連携した教育の充実		
■事業の種類	05 ソフト事業(任意)		■政策・業務区分	政策
■法令の根拠区分	法定受託事務			
■法令等の名称	北上市奨学金貸与条例			
■関連計画の名称	北上市教育振興基本計画			
■事業の目的と概要	経済的理由により修学困難な者へ奨学金を貸与し、教育を受ける機会の拡充と人材育成のための支援を行う。貸与額 高校等 月10,000円、大学等 月30,000円			

2. 細事業の活動実績情報

細事業コード	細事業名称	事業の対象	令和1年度事業計画	令和1年度事業量実績
01	奨学資金貸与事業	高校・大学生等	新規貸与者 38人 継続貸与者 70人 貸与者数合計 108人 貸与金額合計 37,200千円	新規貸与者 22人 継続貸与者 66人 貸与者数合計 88人 貸与金額合計 30,510千円

3. 投入コスト情報

(単位:千円)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和1年度	備考
直接事業費	31,673	33,120	34,269	30,679	
人件費	2,853	3,052	3,304	4,421	
その他(公債費・減価償却費等)					
フルコスト	34,526	36,172	37,573	35,100	

4. 評価指標等の状況

指標コード	指標名	28年度	29年度	30年度	1年度	指標の説明
01	奨学金貸与者数(新規、継続分)	90人	95人	97人	88人	経済状況の低迷で奨学金を必要とする者は多いと思料されるが、申請者数は減少傾向にある。

事務事業事後評価シート[令和1年度事業]

5. 事後評価(「政策」事業類型5・6のみ)

■目標達成状況

- A. 順調
- B. 概ね順調
- C. 遅れている

達成状況の分析

計画に比べ奨学金の新規申請者が少ない状況となっているが、学生数も減少傾向である。奨学生が更に上級の学校へ進学する際にも、新たに申請することがあり、学習意欲のある者への利用にも活用されている。

問題点・課題等

平成29年度から開始した地元就業支援奨学金返還減免制度の利用予定者(返還猶予中)は増えているが、更に地元就業に結び付くような効果的な周知を検討する必要がある。返還金滞納者に対し、積極的に返還を促す対応を他課連携しながら進める必要がある。

1. 直接的な受益者の範囲

- 不特定多数に及ぶ
- 特定されるが多数に及ぶ
- 特定少数に限定される

2. 国・県・民間との競合関係の有無

- 類似の事業はない
- 類似の事業はあるが競合はない
- 類似の事業があり競合する

3. 事業廃止の影響・貢献度

- 事業の廃止により重大な問題が発生する
- 事業の廃止により何らかの問題が発生する
- 事業の廃止による問題は想定されない

4. 市民生活・企業活動への貢献度

- 市民生活・企業活動の維持に不可欠
- 市民生活・企業活動の維持に一定程度貢献している
- 市民生活・企業活動の維持への貢献度は低い

5. 事業廃止の影響を受ける受益者の割合

- 1. で選択した人の大多数(70%程度)
- 1. で選択した人の半分程度(50%程度)
- 1. で選択した人の少数(30%程度)

6. 事業へのニーズの変化

- ニーズが高まっている
- ニーズは変わらない
- ニーズが低下している又は合致しない

7. 施策の改善需要度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

8. 施策の優先度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

9. 他市町村に比較しての優位性

- 先進的またはユニークな事業である
- 他と同程度の事業である
- 遅れている事業である

10. 実施主体の代替性

- 民間委託等の拡充は難しい
- 民間委託等の拡充が十分に可能
- 全部委託や実施主体の移行が可能

11. 経済性・効率性の向上

- 今以上の効率化や改善は難しい
- 効率化や改善を図ることは十分に可能
- 効率化や改善の余地が大きい

■事業の見直し方策(評価項目2,4の補足説明含む)

家庭の状況により就学困難な者に対し必要であり、継続すべき事業である。また、地元就業支援奨学金返還減免制度を活用することで、就学から地元就業へ繋がるきっかけとなるように、利用を促していく。

■今後の方向性

- I. 拡充
- II. 継続
- III. 縮小
- IV. 廃止・休止
- V. 完了